

# 悲しみを繰り返さないよう

阪神大震災（1995年）から28年の1月17日、神戸市長田区御菅地区の慰霊法要で手を合わせる一般社団法人「健太いのちの教室」代表理事、田村孝行さん（62）＝宮城県大崎市＝の姿があった。田村さんは東日本大震災（2011年）の津波で長男の健太さん（当時25歳）を失った。「息子について語る事が未来の命を救う」と、妻の弘美さん（60）とともに震災の教訓を未来につなぐ語り部活動を続けている。東日本は発生から12年目が巡ってくる。田村さんに活動に寄せる思いを聞いた。【まとめ・桜井由紀治】

## 聞いて！

### ■阪神の被災者と

16年に御菅地区で開催された阪神犠牲者の写真展に健太の写真も加えていただいで以来、阪神の被災者とは互いに被災地を行き来する交流が続いています。今回はコロナ禍で3年ぶりの訪問でしたが、変わらず私を優しく迎えてくれました。法要の際には、僧侶が阪神の犠牲者と一緒に健太の名前も唱えてくれました。被災地が異なっても、被災者が異なっても、私たちがはつなぐっている。温かい心遣いに感謝しました。

## 健太いのちの教室

19年に「健太いのちの教室」を設立する際、長年勤めた会社を早期退職して活動に専念すべきか

どうか悩む私の背中を押してくれたのも、この神戸の人でした。



「女川いのちの広場」で、訪れた人に息子の健太さんが津波に襲われた状況を説明する田村さん（左）と妻の弘美さん（右）＝宮城県女川町で（田村さん提供）

もらい、「命を大切にする社会づくり」を息子に約束したので。

### ■語り部活動

12年6月、支店跡地に慰霊の花壇を設置しました。私たち夫婦は、この花壇の前に一日中立ち、訪れる人に声をかけ、ここで何が起きたのか、話を聞いてもらうことから始めました。「同じ悲しみを繰り返してはいけない」と訴える語り部活動の出発点です。

### ◇健太いのちの教室◇

連絡はメール（tamuken@ark.ocn.ne.jp）で。ホームページ（https://kenta-inochiclass.com）では活動紹介や講演依頼を受け付けている。

見えます。私たちはその地を「女川いのちの広場」と命名しました。広場は「震災伝承施設」に追加登録されています。

その後、復興工事の影響で花壇を高台の町有地に移転させました。15年3月には石碑も建立し、「命を守るには高台へ行かねばならぬ」との教訓も刻みました。これまでに1万人以上の人たちが訪れ、出会いと絆を結ぶ場となりました。

その土地も町に返還しなければならなくなり、私たちは支店跡地から約100㎡離れた民有地を購入し昨年6月、石碑を移転させました。新たな場所は、石碑の正面から普段は穏やかな女川港の海が見渡せ、碑の背後には上れば助かった高台が

思えば、多くの出会いとつながりが、悲しみを力に変えてくれました。銀行と手を携え、命を育む取り組みができる日まで、一歩ずつ進んでいきたい。この広場で新たな出会いを待っています。



一般社団法人「健太いのちの教室」代表理事の田村孝行さん

＝いずれも神戸市長田区で

日航ジャンボ機墜落事故現場の御巣鷹の尾根に遺族らと一緒に上りました。遺族が日航に働きかけて築き上げてきたことは、私たちの道しるべになりました。JR福知山線脱線事故の遺族とも交流が生まれました。遺族に共通するのは「教訓を生かしてほしい」という願いです。出会いと学びを重ねて私たちは勇気を



阪神大震災犠牲者の慰霊法要で手を合わせる田村さん（左）